

FY2020.8 3Q 決算説明資料



株式会社農業総合研究所
Nousouken Corporation

<証券コード：3541>

- 1. FY2020.8 3Q 業績報告**
- 2. FY2020.8 計画の進捗**
- 3. Topics**
- 4. Appendix**

FY2020.8 3Q 業績報告

流通総額はコロナ禍を背景とする需要増を取込み、四半期別で過去最高を更新
5月には単月で流通総額10億円の大台に到達

KPI動向



店舗数

1,582店舗

(前期末比 +166店舗)



生産者数

9,130名

(前期末比 +525名)



集荷場

93拠点

(前期末比 +1拠点)

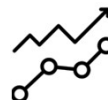
業績動向



流通総額(GMV)*

7,783百万円

(通期計画進捗 74.1%)



売上高

2,466百万円

(通期計画進捗 77.1%)



経常利益

18百万円

(修正後通期計画進捗 -%)

*流通総額：スーパー等において最終消費者に購入いただいた最終販売価格の総計

活動計画の進捗

活動計画：相場変動に関係なく利益水準を維持できる仕組みの確立

→当3Q期間においては、コロナ禍の影響により進捗なし

2Qまで
の進捗



**バラ出荷方式の試験
運用を複数拠点で準備**



**大阪摂津物流センターが
順調に稼働**



**新型コロナウイルスのため
個建出荷説明会は延期**

FY2020.8 3Q 業績総括

旺盛な青果需要の影響もあり、流通総額・売上高は計画を上回る進捗
2Qからの追加投資は継続するも、流通総額の伸長により経常利益は黒字化

※FY2020.8_1Qより単体決算に移行しております

単位：百万円	FY2020.8 単体実績			FY2020.8計画
	3Q累計	対売上高比	年度計画進捗	4Q累計
流通総額	7,783		74.1%	10,500
売上高	2,466		77.1%	3,200
委託販売	1,203			
買取委託	1,057			
卸販売	82			
その他	123			
子会社				
売上総利益	1,541	62.5%		
委託販売	1,203	100.0%		
買取委託	231	21.9%		
卸販売	13	16.9%		
その他	92	75.2%		
子会社				
販売管理費	1,531	62.1%		
営業利益	10	0.4%	17.3%	△40
経常利益	18	0.7%	30.5%	△35

流通総額に対する
売上総利益率
…19.8%

※FY2020.8 1Q累計…18.7%
FY2020.8 2Q累計…19.4%

【参考値】

FY2019.8 連結実績	
3Q累計	対売上高比
7,062	
2,389	
1,149	
851	
38	
93	
256	
1,464	61.3%
1,149	100.0%
160	18.8%
7	20.3%
78	83.2%
68	26.7%
1,507	63.1%
△43	△1.8%
△20	△0.9%

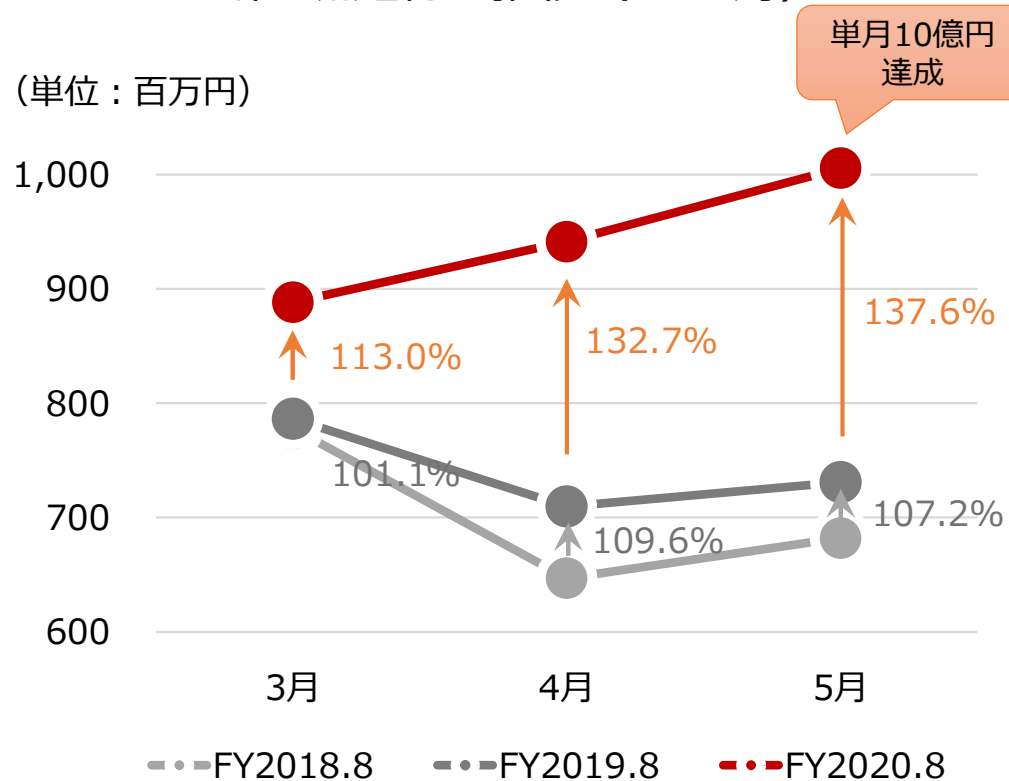
流通総額に対する
売上総利益率
…20.7%

新型コロナウイルス感染症による影響（流通総額）

コロナ禍を背景とする3月以降の突発的な青果需要を取込み、流通総額が伸長

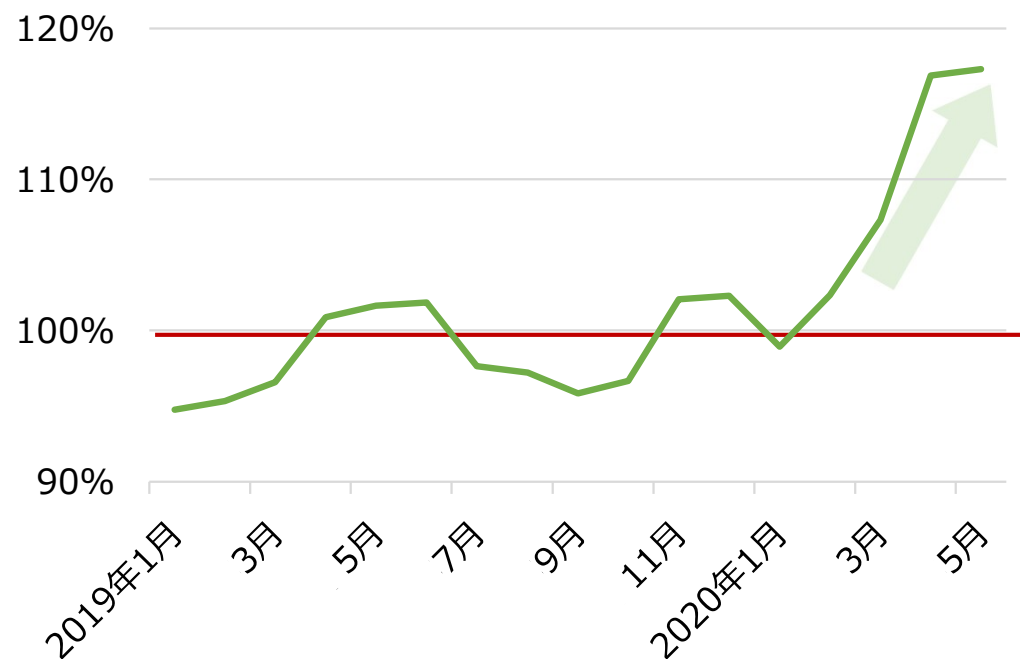
当社 流通総額推移（3-5月）

(単位：百万円)



スーパーマーケット※における青果流通額
前年同月比推移

※食品を中心に扱うスーパーマーケット270社



一般社団法人全国スーパーマーケット協会：「スーパーマーケット販売統計調査資料」より

FY2020.8 3Q 営業利益分析

2Qからの追加投資は継続するも、流通総額の伸長により営業利益は黒字化

単位：百万円

3Q累計額 対GMV比率

流通総額 (GMV)		7,783	
------------	--	-------	--

売上総利益	a	1,541	19.8%
-------	---	-------	-------

主要変動費	物流費	488	
	コンテナ費	82	
	運営委託費	155	
	計	b	725

限界利益	c=a-b	815	10.5%
------	-------	-----	-------

事業経費	d	750	
------	---	-----	--

営業利益 (投資前)	e=c-d	65	
------------	-------	----	--

追加投資	システム関連	32	
	人材採用関連	10	
	環境改善関連	12	
計	f	55	

営業利益 (投資後)	g=e-f	10	0.1%
------------	-------	----	------

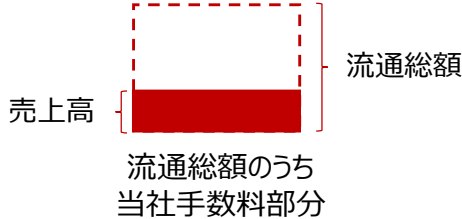


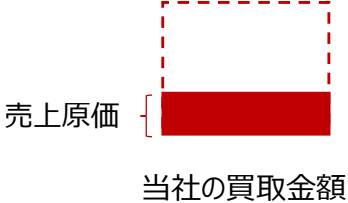
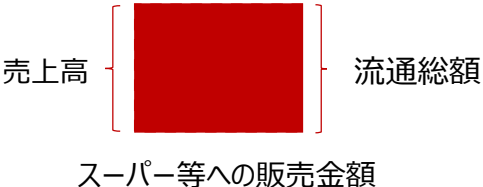
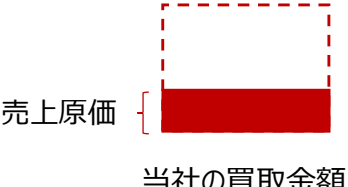
目標限界利益率（10%）を維持

営業自粛による事業経費の未消費もあり、本業での営業利益は65百万円で着地

営業活動が制限されたことによる、翌期以降の業績への懸念も

2Qから開始した追加投資を引き続き実行するも、本業での利益確保が寄与し、投資コスト反映後の営業利益は黒字化

(補足) セグメント別の会計方針

	会 計 方 針	売 上 高	売 上 原 価
委託販売	スーパー等の直売コーナーで委託販売を行う流通プラットフォームを提供。流通総額のうち、当社手数料部分を売上高に計上し、原則売上原価の計上なし。		
買取委託	当社が農産物を買取り、スーパー等で委託販売を実施。そのため当社が在庫リスクを負う。消費者の需要を見越した値付けにより、少ないロス率が特徴。流通総額のうち、スーパー等の販売手数料を差し引いた金額を売上高に計上し、買取仕入高を売上原価に計上。		
卸販売	当社が農産物を買取り、スーパー等へ販売を行う、通常の仕入れ販売。スーパー等へ販売した金額を売上高に計上し、買取仕入高を売上原価に計上。		

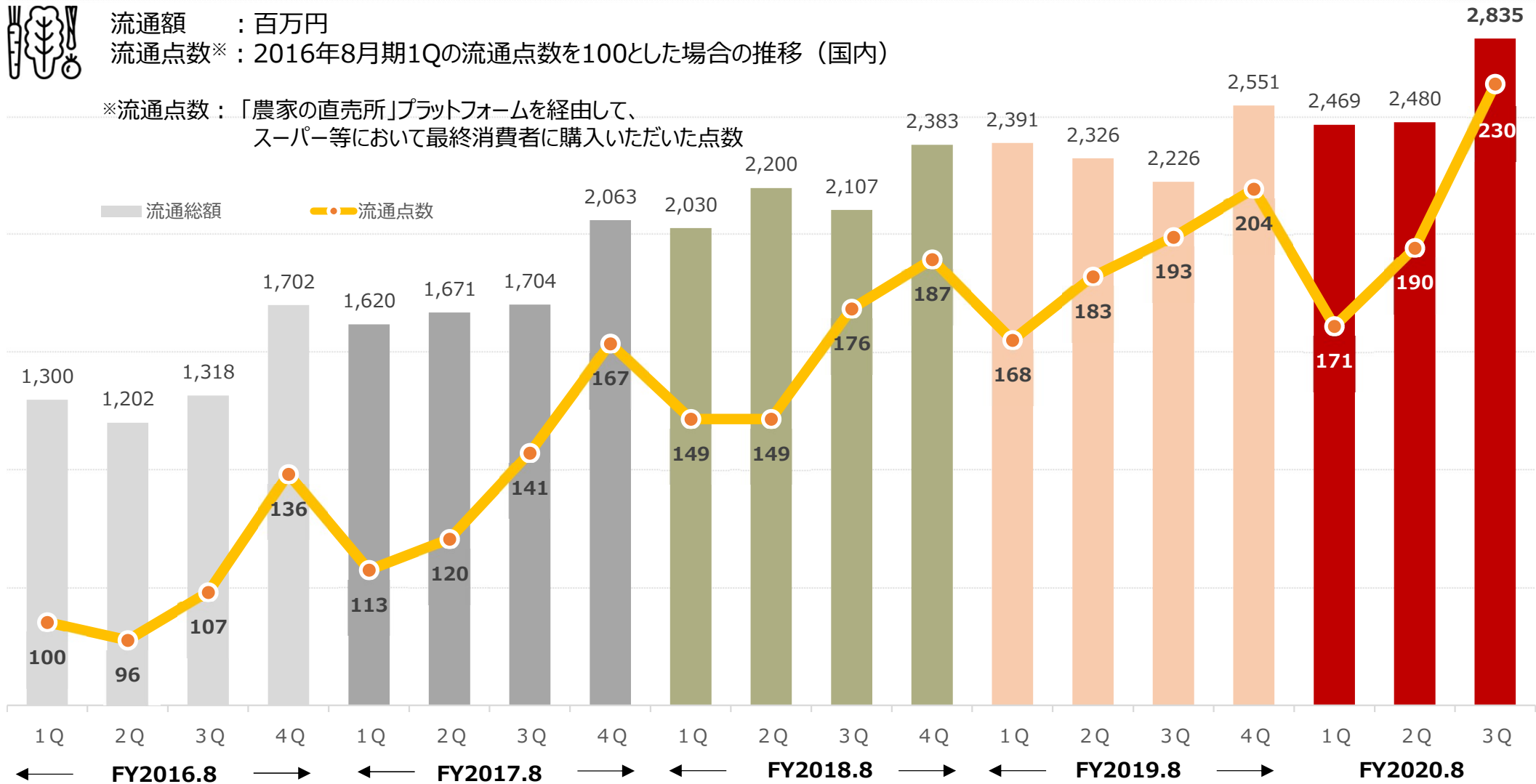
経営指標：流通総額

四半期別で過去最高の流通点数・流通総額を達成し、5月は単月10億円に到達



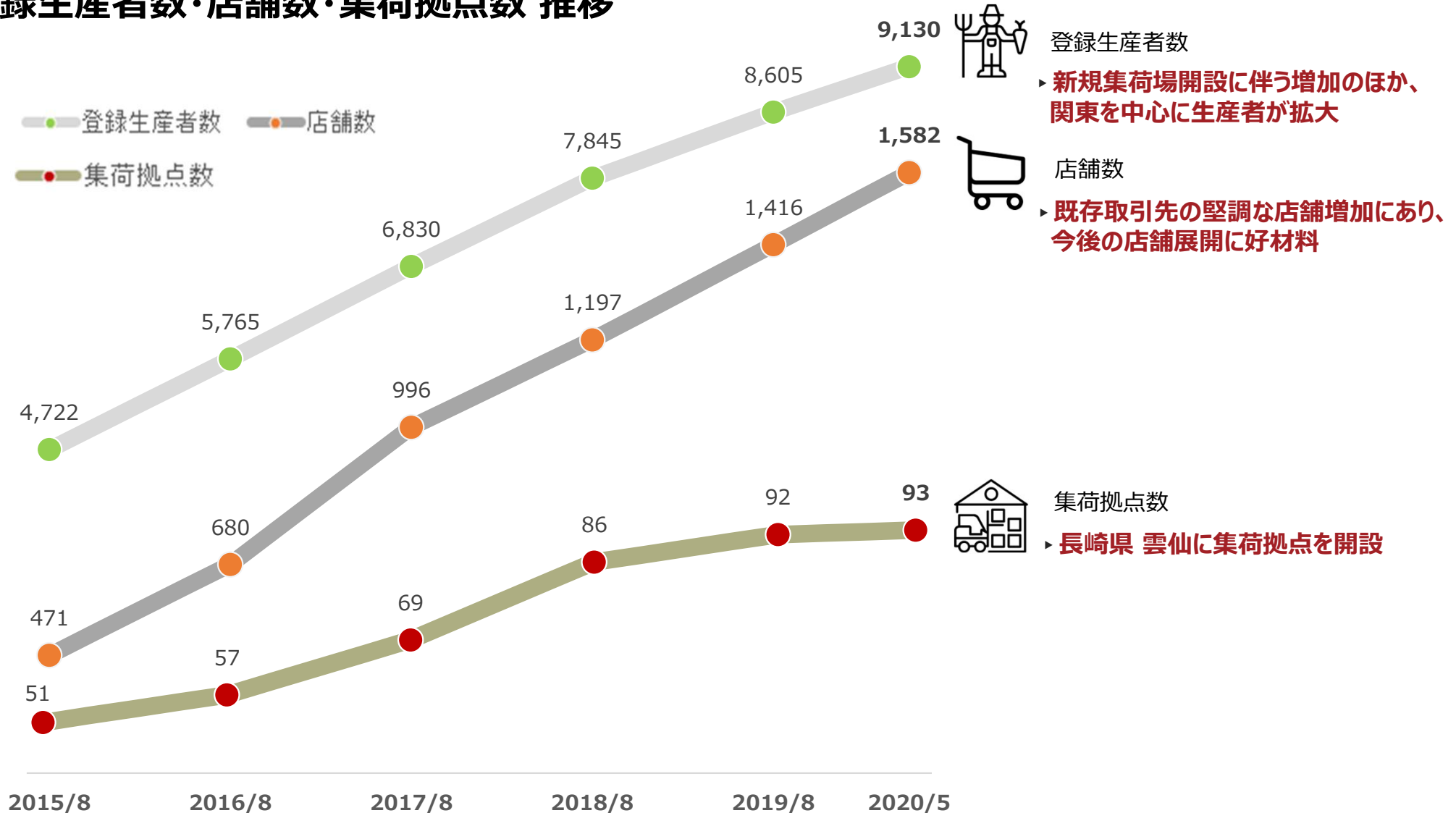
流通額：百万円
流通点数※：2016年8月期1Qの流通点数を100とした場合の推移（国内）

※流通点数：「農家の直売所」プラットフォームを經由して、スーパー等において最終消費者に購入いただいた点数



経営指標：生産者数・店舗数・集荷拠点数

登録生産者数・店舗数・集荷拠点数 推移



FY2020.8 計画の進捗

FY2020.8 活動計画

相場変動に関係なく利益水準を維持できる仕組みの確立

3Q期間（3 - 5月）は、新型コロナウイルスによる突発的な需要への対応にリソースを割いたため進捗なし

設定計画

2Q進捗までの進捗

1 出荷手数料を料率負担から個建負担に変更



✓ 2月より説明会を企画するも、
新型コロナウイルスの影響で延期

2 バラ出荷方式の導入と業務受託の本格開始



✓ 10月からの試験運用を参考に、
複数拠点での展開を準備
✓ 大阪摂津物流センターが順調に稼働

TOPICS

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、取引先の休業などにより被害を受けた生産者の農産物を買取り取ることで支援
当社の販売拠点があるスーパーマーケットで「生産者応援キャンペーン」を実施

■ 買取概要

- ① 対象農家：新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、取引先の休業などにより生産販売額の減少等の被害を受けた生産者（個人、法人）
※当社の登録生産者以外も対象
- ② 対象地域：全国の都道府県
- ③ 期間：2020年4月30日（木）～6月30日（火）
- ④ 対象農産物：小売店で販売可能な全ての青果類
※当社の品質基準があり

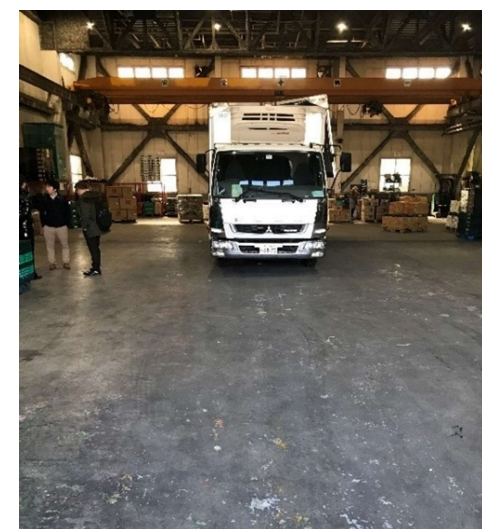


東京加工センターの移転（2020年6月1日～）

これまでの約2倍となる日量30,000パックの加工業務が可能
共同仕入により、遠地からの物流の効率化やコストの削減を実現

移転のポイント

- ・24時間の荷受け対応
- ・加工作業の増加に対応するための十分なスペースを確保
- ・既存の流通網とネットワークを活かすことで外部の加工業務も受託
- ・青果仲卸業者との共同仕入れによる遠地からの物流コストを削減



■ 移転場所：東京都大田区京浜島 ■ 取扱規模：日量 約30,000パック ■ 取扱品目：野菜・果物全般（予定）

業務提携の目的

野菜・果物の取扱量拡大

神明グループは、東果大阪株式会社、大同印岡山大同青果株式会社、株式会社成田市場青果等中心とした野菜・果物の強い集荷インフラを保有し、農総研は海外市場を含む、野菜・果物の幅広い販売網を構築

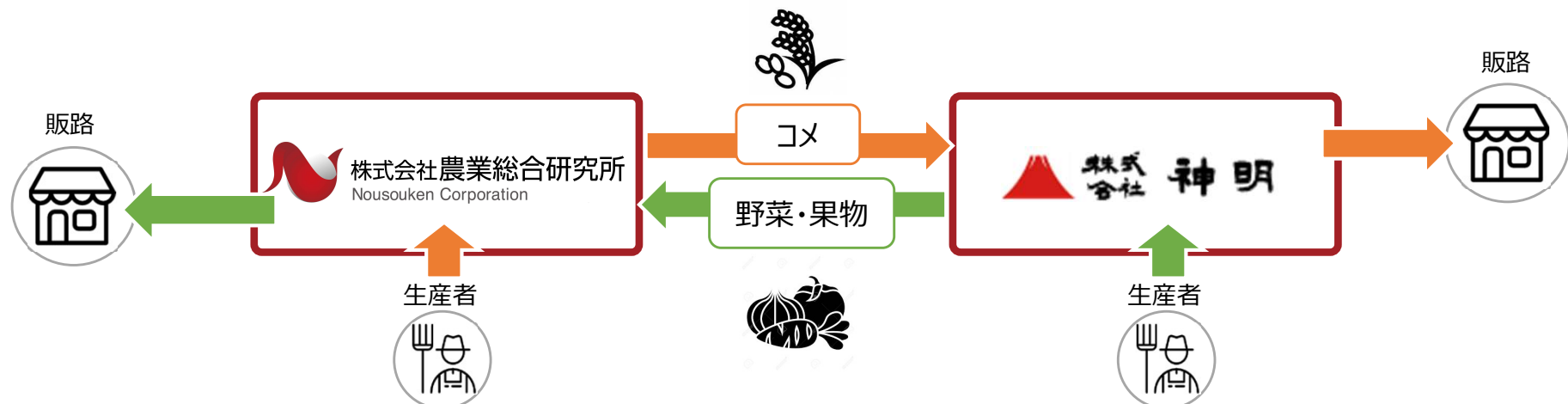
これら両者のインフラを相互利用することで、野菜・果物の取扱量拡大を目指す

コメの集荷ビジネスの協働

神明グループは、コメ流通において広範囲にわたる販売網を構築し、農総研は野菜と果物を中心に集荷する全国 94箇所の集荷場を展開

農総研が集荷場でコメの集荷を開始し、神明の販売網を利用することで、コメの流通量拡大を推進

スキーム図



業務提携の目的

せっかく鮮度のよい野菜なんだから・・・

「どのように食べたらいいの？」「おすすめのレシピは？」「農家さんの食べ方は？」

生活者から多く寄せられる、このような声にお応えするため・・・

国内 No.1 レシピ動画サービス  kurashiru とのタイアップ企画を実現

商品イメージ



- ✓ これまでは、レシピ内容や商品にレシピを付けるかどうかの判断は生産者任せだったため、限定的な展開だった
- ✓ 他方、実際に商品にレシピを付けると、販売率が上がる傾向を確認

本タイアップにより、販売促進を強化

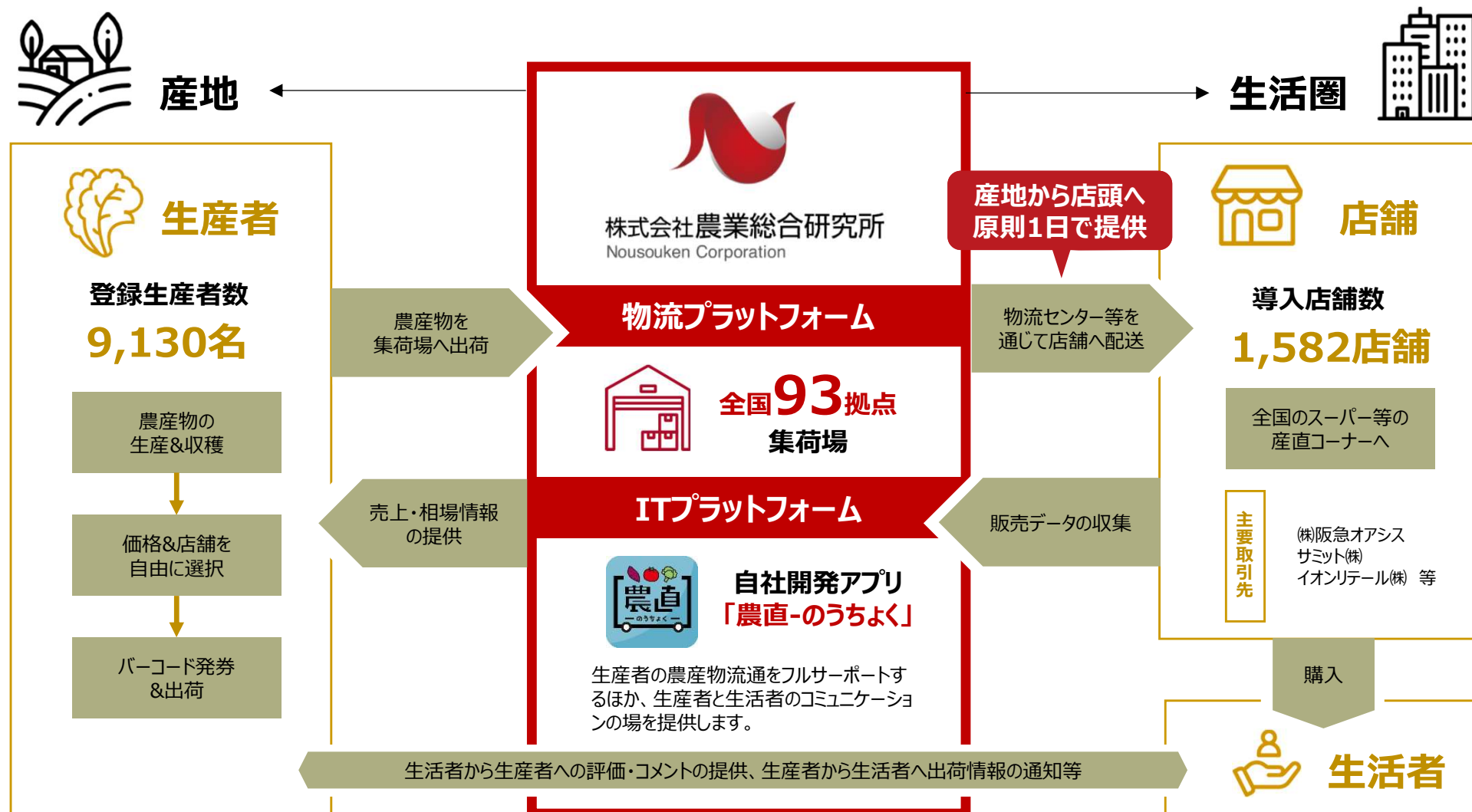
Appendix

会社概要 (2019年5月現在)

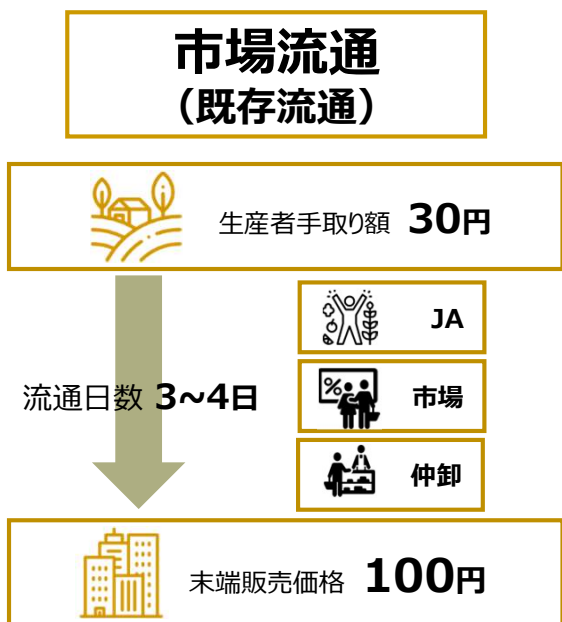
社名	株式会社 農業総合研究所
設立	2007（平成19）年10月25日
代表者	代表取締役会長CEO 及川 智正 代表取締役社長 堀内 寛
本社	和歌山県和歌山市黒田17番地4
資本金	212百万円
主な事業内容	「農家の直売所」事業（委託販売システム・買取委託販売・卸販売）
従業員数	217名（役員・パート含む）
上場市場	東証マザーズ（証券コード：3541）
経営目標	持続可能な農産業を実現し、生活者を豊かにする
経営方針	ビジネスとして魅力ある農産業の確立

「農家の直売所」について

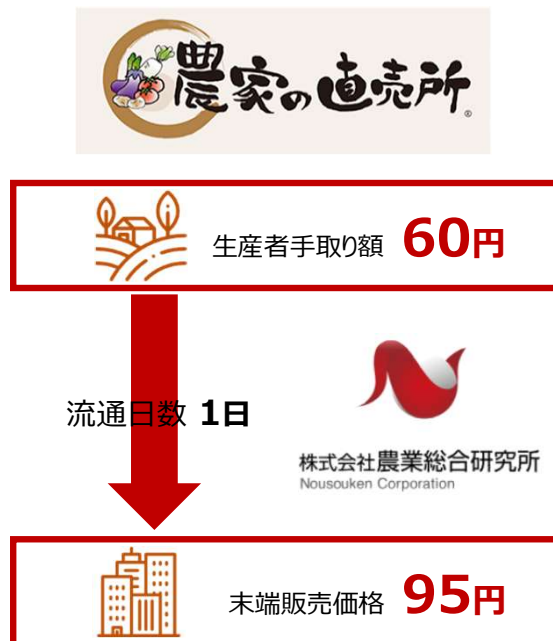
「物流」×「IT」新しい農産物流通プラットフォーム



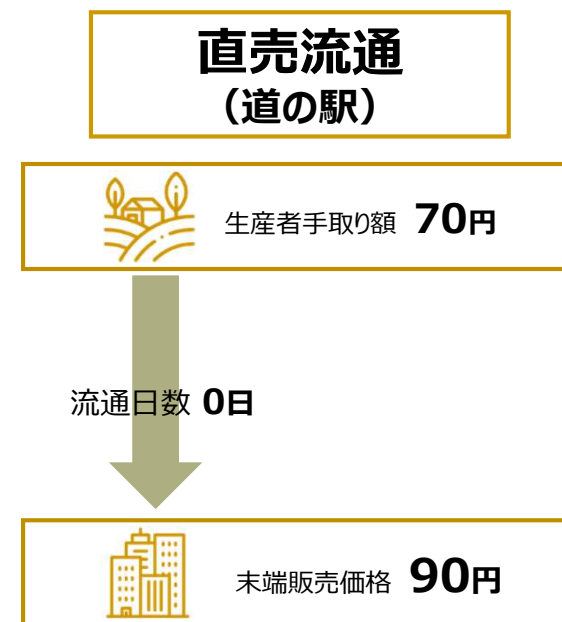
市場流通と直売流通の中間となる「農家の直売所」



- 流通販売量
- 安定供給量
- 出荷作業量
- 流通自由度
- 生産者収益
- 情報伝達量



- 流通販売量
- 安定供給量
- 出荷作業量
- 流通自由度
- 生産者収益
- 情報伝達量



- 流通販売量
- 安定供給量
- 出荷作業量
- 流通自由度
- 生産者収益
- 情報伝達量

将来見通しに関する注意事項

本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements) を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。

今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

FY2020.8の予想値につきましては、新たに算出した予想値または決算において差異が生じ、当該差異が開示基準に該当する場合は、速やかに開示をいたします。

本発表に関するお問合せ

株式会社農業総合研究所 IR担当
TEL : 03-6417-1047 Mail : ir@nousouken.co.jp